

1. 認知症とは

脳は、人間の活動をコントロールしている司令塔です。
認知症とは、様々な原因で脳の細胞が壊れてしまい、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、様々な障害が起こり、生活する上で支障がおよそ6か月以上継続している状態を指します。

65歳未満で発症した認知症を「若年性認知症」と言います。仕事や家事において、ミスが重なったりやる気がなくなったりするなどの症状が現れますが、症状が他の病気と類似していることもあり、診断がつくまでに時間を要する場合があります。また、就労・子育て・経済・親の介護など、複合的な課題を抱えることもあります。周囲の理解や環境整備によって生き生きと暮らしている人も少なくありません。

その他、認知機能の低下はあっても日常生活に支障がない状態を「軽度認知障害（MCI/Mild Cognitive Impairment）」と言います。軽度認知障害の場合、数年後に認知症に移行する可能性があります。回復する可能性も高いため、早期診断・早期対応が必要です。

2. 認知症の症状

脳の細胞が壊れる

誰にでも起こる症状です。
抗認知症薬で進行を遅らせることができる場合があります。

中核症状

脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状

記憶障害
覚えられない すぐ忘れる

見当識障害
季節・時間・場所が分からない

理解・判断力の障害
考えるスピードが遅くなる
いつもと違う出来事で混乱しやすい

実行機能障害
計画を立て、段取りをすることができなくなる

性格・素質

環境・心理状態

行動・心理症状（BPSD/Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia）

性格・環境・人間関係などの要因により起こる症状

不安・焦燥

うつ状態

幻覚・妄想

興奮・暴力

道に迷う

不潔行為

※行動・心理症状は、人によって症状が出たり出なかったりします。
原因に働きかけることで症状を緩和・改善・予防できます。